

白石市民春まつり

記録的な大雨に見舞われた5月3日
それでも市民はあきらめなかった
伝統は自分たちで創るものと全身で表現した

2年ぶりの開催
あいにくの雨となったが
白石市民の心意気を垣間見た1日
記録にも記憶にも残る春まつりとなった

1_大雨の中、商店街を練り歩く「しろいし大行列」。記録にも記憶にも残るまつりとなった 2_すまいる大使の山崎パニラさん(左)はお姫さま役で登場 3_昭和59年度白石中学校卒業生を中心とした神輿渡御 4_甲冑工房「片倉塾」 5_柳町地区の大人神輿 6_郡山地区の大人神輿 7_第3回全日本ストリート足軽選手権大会 8_柳町地区の子ども神輿。雨に負けない元気な声が響き渡った 9_片倉塾の島貴征二さんと風間市長が騎馬武者として参列 10_新町地区の大人神輿 11_長町地区の子どもたち。本来なら「白石まつり囃子」の全曲を約40年ぶりに太鼓と横笛で披露する予定だった 12_田町地区の太鼓山車 13_すまいるひろばで行われた「すまいるコンサート」。山崎パニラさんとよさこい走乱白石城の皆さんが、「白石よござりす」の踊りを披露 14_短ヶ町地区の太鼓山車 15_白石市建設職組合青年部の神輿 16・17_中町地区の太鼓山車と子どもたち 18_南町地区の子ども神輿



数日前からの天気予報は雨。降水確率100%の空に、奇跡を信じた市民の願いは届かなかった。開催日が5月3日に変更された昭和57(1982)年以来、「雨で中止になったなんて聞いたことがない」とみんなが口をそろえた。過去の記録をひもといてみても、25年前の昭和62(1987)年、西郷輝彦さんが来白したときにも雨は降ったが、本年ほどではなかった。片倉鉄砲隊の火縄銃演武や白石市消防団伝統階子乗り隊の階子乗り、稚児行列などの中止が決定する中、太鼓山車や神輿などは各地区・団体に判断が委ねられた。それでも市民はあきらめなかった。「ここで絶やしてはならない」とばかりに7地区2団体が参加を決定。大雨と強風の中、太鼓山車や神輿が元気な掛け声とともに商店街を練り歩き、すまいる大使の山崎パニラさんも沿道からの声援に笑顔で応えた。昨年は東日本大震災の影響で中止となった春まつり。2年ぶりの開催となる本年は、多くの人たちの活気であふれるまつりとなるはずだった。あいにくの雨となったが、白石市民の心意気を垣間見た1日でもあった。この思いは必ず来年へとつながっていくはずだ。